

荒尾競馬場跡地の今、そして、これから

84年間の長きにわたり、荒尾市のシンボルであり続けた荒尾競馬。多くの功績を残しながらも、平成24年に惜しまれつつも幕を下ろしました。今、競馬場跡地は新たな価値を創造し、次世代に引き継ぐ新しい市のシンボルとして生まれ変わるうとしています。跡地を中心とした、35ヘクタールという広大な土地では、土地区画整理事業が着々と進んでいます。真っ白なキャンパスを彩るまちづくりのコンセプトはウェルネス拠点のまちづくり。ウェルネスとは、輝くように生き生きとしている状態（Dunn, 1959）などと定義される概念です。子どもから高齢者まで全ての人が心豊かに健康で快適に過ごせるまちをつくることを目指しています。加えて、「荒尾ならではのウェルネス」という観点から、新たなコンセプトも策定し、この地にしかない「価値」の創造も目指していきます。さらに、先進的技術を活用したスマートシティのまちづくりと相互に連携し合うことでより高い効果を生み出す取り組みも始まりました。新たなステージに挑むこの地域の現状をお届けします。

「南新地地区ウェルネス拠点基本構想」を策定しました

『有明海の夕陽が照らすウェルネスタウンあらお』
居住環境・交流環境を創出するため新たなまちづくりのコンセプトです。有明海に臨む素晴らしい眺望や豊かな自然環境を生かして、都会にはないゆたかりとした時間のなかで、ここから癒し、明日への活力を生み出す空間づくりと、居住者や来訪者の自己啓発につながる機能を備えながら、暮らしやすさだけでなくワンランク上のライフスタイルが実現できるまちを目指します。

ウェルネス拠点連携施設

文化施設/子育て関連施設

- 天気や気にせず子供を伸び伸び遊ばせることができる
セキュリティ付 屋内運動場
- 子供が学べる
託児付き 幼児教室
- 最新技術や特別な体験ができる
ICTやVRを活用した体験
- 異文化に触れることができる
インバウンドステーション

- 日本/九州初出店のテラス付きレストラン
- 自然志向なバランスのとれた食事ができる
- インスタ映えするような特別な時間/非日常をゆっくり楽しみながら食事できる
- ファーマーズマルシェ/BBQ用食材市場

アウトドア施設

- 設備の充実したオートキャンプ場
- 手ぶらでも楽しめるBBQ場
- 自然の中で一日中家族や友人とワイワイ楽しめる

- ホーストレッキング
- ホースセラピー
- サンセットヨガ
- シーサイドヨガ

- 子供と一緒に/子供だけで安全に伸び伸び遊ぶことができる
- 干潟公園
- 干潟体験プログラム(マジャク釣り等)

- インスタ映えする
- 夕日と海を同時に味わうことができる展望台、棧橋

荒尾ならではのグルメを海や夕陽を感じながら味わうことができる

ご当地屋台・ワゴン/アウトドアカフェ

交通インフラ

- 先進的な移動を体験できる
- 自動運転バス
- 乗り捨て可能な小型EVシェアリング

有明海を感じられる運動施設/サービス

- 海や夕陽や星を見ながら気持ちよく汗を流せる
- 海が見えるスポーツジム
- レンタルセグウェイ
- 海岸を巡るウォーキングランニング
- 海岸を巡るサイクリング/レンタサイクル

有明海を臨む宿泊施設

- 特別な時間を楽しみながらゆっくり宿泊できる
- 有明海を一望できるホテル

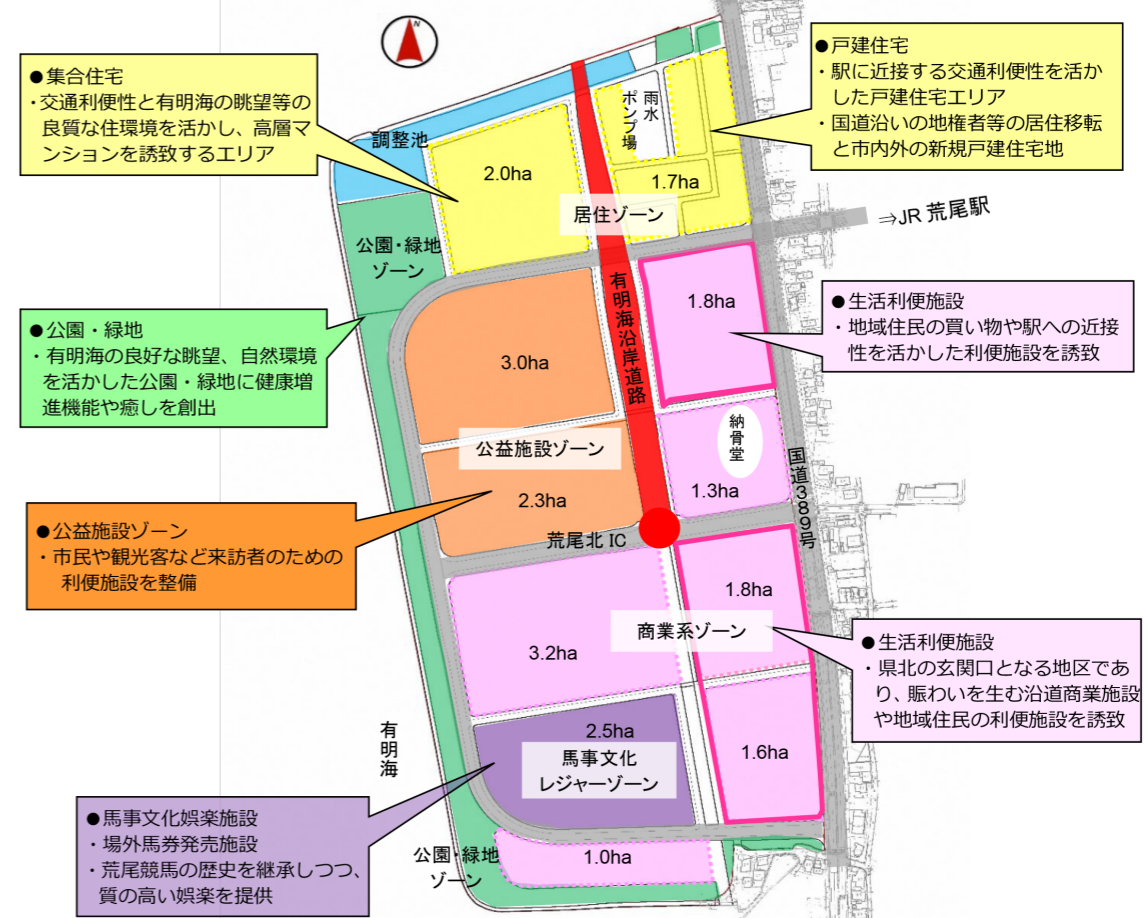
有明海を臨む温浴施設

- 荒尾ならではの特別な体験ができる
- 一日中ゆっくり旅行気分できつろげる
- リラックス、リフレッシュ、ストレス解消できる
- 有明海の夕陽が見えるインフィニティSPA
- リゾートホテルのライブラリーのようなカフェバー
- 各種エステ/セラピー(ファンゴ/タラソ等)

5つの機能大分類

- ☆安全で健康に良い地元の特長な食を楽しむことができる
- ☆荒尾ならではの食にスポットをあてる
- ☆一日中飽きずに遊んだり、学ぶことができる
- ☆最新技術や特別な体験を提供する
- ☆のんびりリラックスでき、健康になれる
- ☆来訪者の要求を意識した心の健康に重視する
- ☆気持ちよく運動し汗を流してリフレッシュできる
- ☆身体的な健康を意識させ、象徴である有明海一帯や景観を活かす
- ☆自然の中で家族や友人とアクティビティに遊ぶことができる
- ☆子育て世代が住みやすい、子育てしやすい環境をつくる

●土地区画整理事業後の土地利用イメージ



岡都市計画課区画整理係
☎ 63・1635
岡政策企画課総合政策室
☎ 63・1273

先進的技術を活用した快適なまちづくり「スマートシティ」
民間事業者や学術研究機関とともに取り組んでいます。ことし5月には、国土交通省が募集したスマートシティのモデル事業「重点事業化促進プロジェクト」に選定されました。国による支援も受けながら取り組みを進めていきます。8月23日、共同提案者である民間事業者・大学の皆さんと、取り組みを推進するための協議会を設立しました。産学官が連携して、まずはデータ活用やヘルスケア、エネルギー、モビリティの分野の取り組みを進めていきます。

